

陽性者**判明前**からの院内感染対策のポイント

○ 発生に備えた院内の体制整備

- ・ 全職員の教育(標準予防策、感染経路別予防策、流行しているウイルスの特徴など)
- ・ 感染対策を担当する医師および看護師、その他スタッフによる巡回を実施。

○ 標準予防策、感染経路別予防策の徹底

- ・ 正しい手指衛生、適切な个人防护具の選択と着脱(N95、サージカルマスク、フェイスシールド、ゴーグル、手袋、ガウン、エプロンなど)、咳エチケットを徹底。
- ・ 高頻度に不特定多数が接触する箇所(ドアノブ、手すり、スイッチ、テーブル、ベッド柵、パソコン、PHS、電話、ナースコールなど)は、各勤務において清拭消毒を実施し、環境対策を行うこと。
- ・ 環境を汚染させないように、廃棄物の適切な処理方法、使用後のリネンの適切な取扱い等を掲示し、医療廃棄物の適切な処理をすること。

○ 室内換気の徹底

- ・ 病棟、休憩室等の各部署の空気の流れの確認し、機械または窓等の開放による換気の徹底。
- ・ 汚染エリアから(レッドゾーン)の空気が清潔エリア(グリーンゾーン)へ流れ込まないための工夫を検討。

○ 職員への対応

- ・ 出勤前の体温測定及び発熱、咳等の症状が認められる場合の他、鼻炎等の持病持ちである場合でも普段違うと感じた場合には、職場長等への報告を行い職場長等は出勤を行わないよう指示することを徹底。やむを得ず勤務する場合でもPCR検査等を積極的に実施する。
- ・ 標準予防策や休憩時等マスクを外す場面における黙食の実施等、感染予防対策を徹底する。

○ 取引業者等への対応

- ・ 職員のみならず、委託業者等、職員などと接触する可能性と考えられる者も含めて、マスクの着用を含む咳エチケットや手洗い、アルコール消毒等により感染経路を断つ。
- ・ 取引業者、委託業者等も、物品の受け渡し等は玄関など施設の限られた場所で行うこと、施設内に立ち入る場合については、体温を計測してもらい、発熱が認められる場合には入館を断るといった対応を検討。

○ 患者への対応

- ・ マスク着用、手洗い、手指消毒の他、施設内でも(売店に行く際でも)人混みは避ける等、感染予防対策を徹底する。
- ・ 発熱、体調不良等の症状が出た場合には、速やかに検査を行う。
- ・ 可能な限り入院時検査を実施する。

陽性者**判明時**における院内感染対策の**初動対応**のポイント

○ 院内感染の影響範囲の早期把握

- ・ 院内感染が疑われる場合(関係する2名以上の者が感染した場合等)には、検知から一両日中に一斉検査等、検査対象者を幅広く選定することで、院内感染の影響範囲を把握する(早期の囲い込み)とともに、影響範囲に応じた適切なゾーニング等を行う。
- ・ 感染状況を把握するため、その後のフォローとして再度一斉検査を実施することを検討する。

○ ゾーニング・コホーティング

- ・ 2名以上の陽性者が発生した場合、ゾーニングの準備を行う。
- ・ 感染領域と非感染領域を明確に区分けすること。流れが交差しない工夫をすること。
- ・ 入院患者を、感染者・濃厚接触者・それ以外の者の病室に分けること。

○ 標準予防策の強化

- ・ 陽性者判明時には、アイシールド(フェイスシールド)を常時着用に変更する等、普段の標準予防策からのレベルを上げることが検討される。
- ・ また、感染者が多数発生している場合やエアロゾルによる感染拡大が疑われる場合には、アイシールド等に加え、N95マスクの常時着用や、手袋、ガウン等も含めた予防策(フルPPE装備)を標準とすることを検討する。

○ 感染を広げさせないための濃厚接触者等への対応

- ・ 濃厚接触者に当たる患者は可能な限り、個室管理とすることが望ましい。
- ・ 濃厚接触者の有無関わらず、感染期に転棟した患者については、転棟先での感染の広がりを防ぐため、陰性確認及び待機期間の経過(濃厚接触者)まで個室管理とすることが望ましい。

○ 鳥取県感染制御専門家チームへの相談

- ・ 自院での感染対策について、鳥取県感染制御地域支援ネットワーク(白兔ネット)の鳥取県感染制御専門家チーム等による相談対応、現地での助言を検討する。(陽性者有無に関わらず、相談できます。)

※希望される場合は管轄の保健所へお問合せください。

(概要はホームページ参照) <https://www.pref.tottori.lg.jp/193040.htm>

重症化リスクの高い**高齢者が多く入院している医療機関**において 特に注意いただくべきポイント

(※陽性者判明前及び判明時のポイントと一部重複)

○ 職員、取引業者等によるウイルスの持込みの防止

(入院が長期化しやすい療養病床などの場合、ウイルスは基本的に(患者からではなく)職員等から院内に持ち込まれるという前提に立った対策を実施)

○ 個人防護具(N95、サージカルマスク、ゴーグル、手袋等)の適切な着脱など、標準予防策の徹底

(喀痰吸引、歯磨き、摂食・嚥下リハ、入浴介助などの場面では、飛沫・接触感染の可能性が高まるおそれ)

○ 適切なゾーニング・コホーティング

(不潔区域から清潔区域への物品(保冷枕など)の持出しはないか、持ち出す場合には適切に消毒しているか等を含む。患者が使用したリネン類だけでなく、喀痰吸引で使用した器具、使用済の防護具等にも注意が必要)

○ 患者の症状等の把握、必要に応じた迅速な検査等の実施

(重症化リスクの高い高齢者等について、体調・症状等を丁寧に確認。感染が疑われる場合は、患者・職員ともに、迅速なPCR検査等を実施。結果に応じ、保健所や鳥取県感染制御専門家チームとも連携して対応。早期発見し、感染拡大を防止。)